

# 人と自然を繋ぐ、新たなWell-beingの拠点

## 設計主旨

プラザ空間に水と緑の融合した空間を創造し、都市化が進む現代社会において希薄になりつつある人と自然の繋がりを再構築する。そして全ての人々が自然と触れ合い、心身の健康を育み、日常の憩いから特別なイベントまで、幅広い活動を支える場を設計する。



多くの利用者に賑わうプラザ空間

## 設計のキーワード

- 1. 人と緑の共生によるWell-beingの促進 2. 自然が生む学びのコミュニティ 3. 持続可能性と地域性 4. 多世代利用と包摂性 5. 多様なコミュニティ活動の場

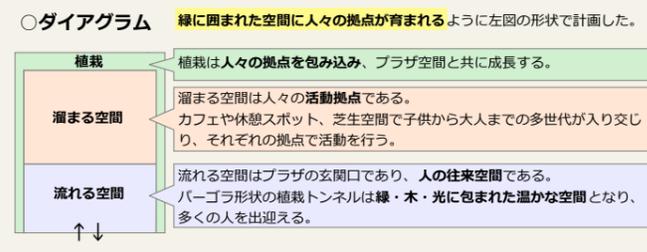
## 期待される効果

- 1. 人と自然の調和した幸福のある生活 2. 環境意識の醸成 3. 持続可能な循環環境の実現 4. 包摂的社会的実現 5. 地域コミュニティの活性化及び地域振興

このプラザ空間は、人と自然、人と人をつなげる拠点となり、持続可能でWell-beingな地域社会の実現に貢献する。



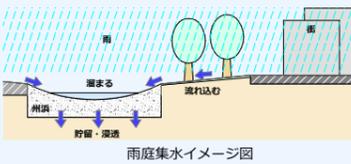
- 植栽樹種 (凡例)**  
A,アオダモ (落葉) B,キンモクセイ (常緑) C,ツリバナ (落葉) D,ナナカマド (落葉) E,ソヨゴ (常緑) F,シマトネリコ (常緑) G,ハイノキ (常緑) H,ヤマボウシ (常緑) I,ジンチョウゲ (常緑)
- コミュニティガーデン**  
春 オルレア, ローダンセマム, ルピナス, ガザニア, ラベンダー, ワスレナグサ  
夏 エキナセア, ニチニチソウ, インパチェンス, マリーゴールド, キキョウ  
秋 ショウメイギク, ダリア, コスモス, コレオプス, 宿根サルビア  
冬 クリスマスローズ, ノースポール, スイートアリッサム, スイセン, パンジー
- つる植物**  
春夏 エンドウ, フジ, スワインソナ・ガレギオリア, パタフライビー  
秋冬 イボメア, ジャスミン, バトレア
- 壁面植栽**  
ベゼラ・ヘリックス, ヘデラ・カナリエンシス, アメリカツルマサキ 'コロラータ', ヘデラ・ヘリックス 'グレーシャー'
- 四季の変化**  
春 新緑と花が空間を彩り、活気が満ちる季節感を演出する。  
夏 豊かな緑の木陰と、涼やかな水の流れを活かした涼感のある空間を演出する。  
秋 葉が色づき紅葉や実りを楽しめる空間となり、季節の豊かさを体感する。  
冬 冬の静寂さと透明感に光の暖かみを取り入れた幻想的な景観を演出する。



## 「水」を取り入れた設計背景

私の住んでいる地域は全体的に見ても降水量の多い地域に属している。また雨の日には気分がやや下がり気味となり、空と同様に人ごみよりとした気持ちとなる。しかし現在の都市空間ではアスファルトに覆われたグレーンフラが進行し、雨はほとんど地中に浸み込まずに排水されている。この都市のグレーンフラの進行と雨水排水に緑化を結びつけ、雨という気候に対しても活きる屋外空間を提案する。

○雨庭 (あめにわ) : 屋根に降った雨を直接下水道に流すのではなく、一時的に貯留して、ゆっくりと地中に浸透される構造の植栽空間



## 1. 「集う」：人と自然の共生空間

木々に包まれた散策路と、憩いの拠点により、日々のストレス軽減やリラクゼーションの場となる。緑に囲まれたカフェやベンチに腰を下ろすと、社会的交流の場が生まれる。



格子の木組みや植物の緑、自然光の温かみに包まれる植栽トンネルは人々を惹きつけ、安心感や落ち着きを与える。

## 2. 「ふれあう」：人と自然、そして人と人の交流

コミュニティガーデンや自然と近い環境で生態系を学び、子どもの学びと親子の触れ合いを生み出す。植栽選びや管理に地域住民を巻き込み、利用者参加型の運営を推進する。



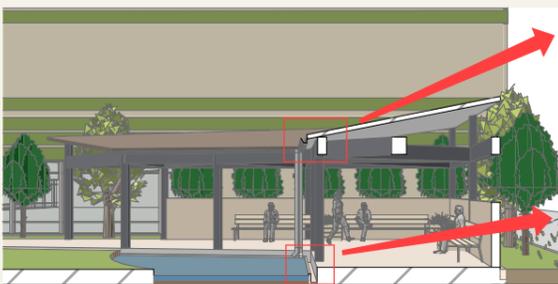
自然溢れる空間は人々を引き込み、癒しを与える空間となる。



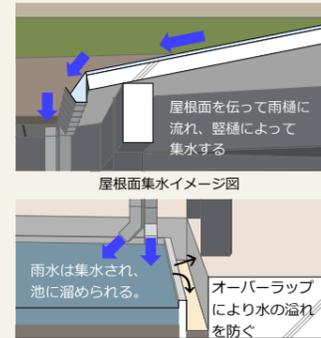
コミュニティガーデンはプラザ空間の入口に華やかな彩りを与え、季節とともに変化する花の色や匂いによって心身を癒す。

## 3. 「保つ」：持続可能な自然を支えるエコロジカル

雨水利用システムを導入し、水資源の効率的な利用と緑の持続性向上を図る。



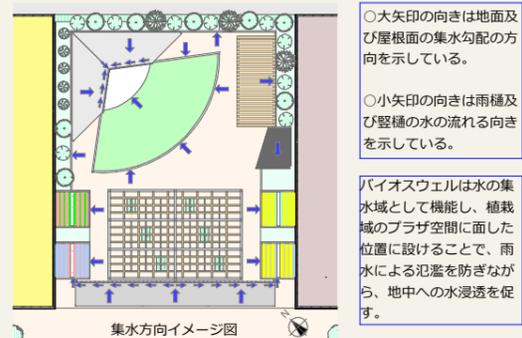
集水イメージ断面図



屋根面集水イメージ図

雨水は集水され、池に溜められる。

池の水循環イメージ図



集水方向イメージ図

○大矢印の向きは地面及び屋根面の集水勾配の方向を示している。  
○小矢印の向きは雨樋及び壁樋の水の流れの向きを示している。

バイオスウェルは水の集水域として機能し、植栽域のプラザ空間に面した位置に設けることで、雨水による氾濫を防ぎながら、地中への水浸透を促す。

## 4. 「つなぐ」：多世代が利用できる共生空間

子どもから高齢者までが利用しやすいバリアフリー設計を基本とする。



段差や障害物がない開けた空間設計により全ての人の拠点となり、コミュニティ空間となる。

## 5. 「育む」：持続可能なコミュニティの創造

環境教育やエコイベントの開催を通じて、人々の環境意識を高めながら次世代につながる持続可能な緑化空間を目指す。



ガーデンづくりイベント  
コミュニティガーデンづくりを通して自然と触れ合い、生物多様性を保持し、さらに地域コミュニティを育む。



環境保全イベント  
若者世代を中心とした環境活動団体によるトークセッションイベントやグリーンマルシェを行い、環境意識を養う。

## 夜のプラザ空間



夜の植栽トンネル  
夜間はライトアップされ、格子の木組みや植栽の葉は昼間と違った趣のある空間を生み出し、人々に安らぎを与える。



夜の広場空間  
移動式屋外席や喫茶エリアで腰を下ろし、飲食を楽しみながら優雅な夜のひと時を過ごす。



地域主催イベント  
路上ピアノ演奏や子どもたちのダンスパフォーマンス披露会などイベントを通した明るいプラザ空間を創出し、人々に幸せを与える。